

筑波大学総合技術研究会 2025(報告)

福井 陽介^{A)}, 漆谷 雄太^{A)}, 山田 知沙^{B)}

情報技術課^{A)}, 技術企画課^{B)}

1 はじめに

2025年3月5日から7日にかけて、筑波大学筑波キャンパスにおいて「総合技術研究会 2025」が開催された。本研究会は、技術職員が日常業務で培った知識や経験を共有し、技術力の向上と相互交流を図ることを目的とした研究会である。施設見学会、ポスター発表、口頭発表、特別講演など多彩なプログラムが実施され、技術職員間の知識共有と交流が促進された。

本報告では、2課より3名が日頃の活動内容や成果を発表し、今後の技術職員の連携・協働を一層深化させるための取り組みや、技術向上に向けた課題についても考察する。

2 施設見学及び特別講義

3月5日 施設見学

学術情報メディアセンターの施設見学に参加した。ここでは、附属学校や遠隔地施設を含む基盤ネットワークや全学計算機システム、統一認証システム、ソフトウェアライセンス、e-learning、各種サービス等の管理・運用を行っており、施設見学と共に質疑応答が行われた。

3月6日 特別講演

特別講演 1: 重田育照副学長

「筑波大学のコアファンリテリ戦略と技術職員の活躍促進に向けた組織整備について」

筑波大学では、全学的な研究設備の共用化と有効活用を推進するため、共用システムの高度化や機器の拡充を進めている。また、専任スタッフの確保や技術職員の専門性向上、研究機関との連携強化にも注力し、技術職員の活躍を促進する体制を整備している。これらの取り組みにより、研究環境のさらなる充実を図り、持続的な研究基盤の強化を目指していることについて講話があった。

特別講演 2: 柳沢正史 国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIIIS)機構長・教授

「睡眠の謎に挑む～原理の追求から社会実装まで～」

睡眠の起源や調節機構、社会への応用について講話があった。脳を持たないクラゲなども睡眠状態を示すことから、睡眠が脳の出現以前に進化した可能性を指摘した。また、遺伝子改変マウスを用いた研究で、睡眠と覚醒の調節に関与する遺伝子を特定し、眠気の分子メカニズムに迫った。さらに、睡眠不足がうつ病や認知症、メタボリック症候群の発症リスクを高めることを示し、社会実装として在宅での睡眠測定を可能にするデバイスの開発にも取り組んでいる。

特別講演 3: 土佐信道 芸術系教授

「ナンセンスを具現化する昭和電機のエンジニアリング思考」

アートユニット「昭和電機」の活動を通じて、ナンセンスを具現化する創造過程やエンジニアリング思考についての講話が行われた。土佐氏は、自ら思い浮かべたナンセンスなイメージをスケッチし、それを機械的手法で具現化

するプロセスを繰り返しており、試行の積み重ねこそが、工学と芸術の融合であり、彼の創作活動の核となっている。講話では、その思考過程や創作の背景についても詳しく語られた。

3 おわりに

本研究会への参加を通じ、技術職員としての専門性向上とキャリアパスについて深く考える機会を得た。特別講演では、先端技術の応用や学際的なアプローチの重要性を学び、今後の業務にも広い視野を持って取り組む必要性を実感した。また、他大学の技術職員との意見交換を通じて、異なる環境での課題や解決策を知ることができ、自身の業務を見直す貴重な機会となった。本研究会で得た知見や人的ネットワークを活かし、技術の発展と社会実装を視野に入れながら、より実践的な課題解決に取り組んでいきたい。